

群 教 セ	G01 - 02
	令 4.281集
	国語 - 小

情報を適切に結び付けて、 考えが伝わるように書き表せる児童の育成 ——情報のつなげ方シートを用いた 情報の扱い方の指導の工夫を通して——

特別研修員 清水 良一

I 研究テーマ設定の理由

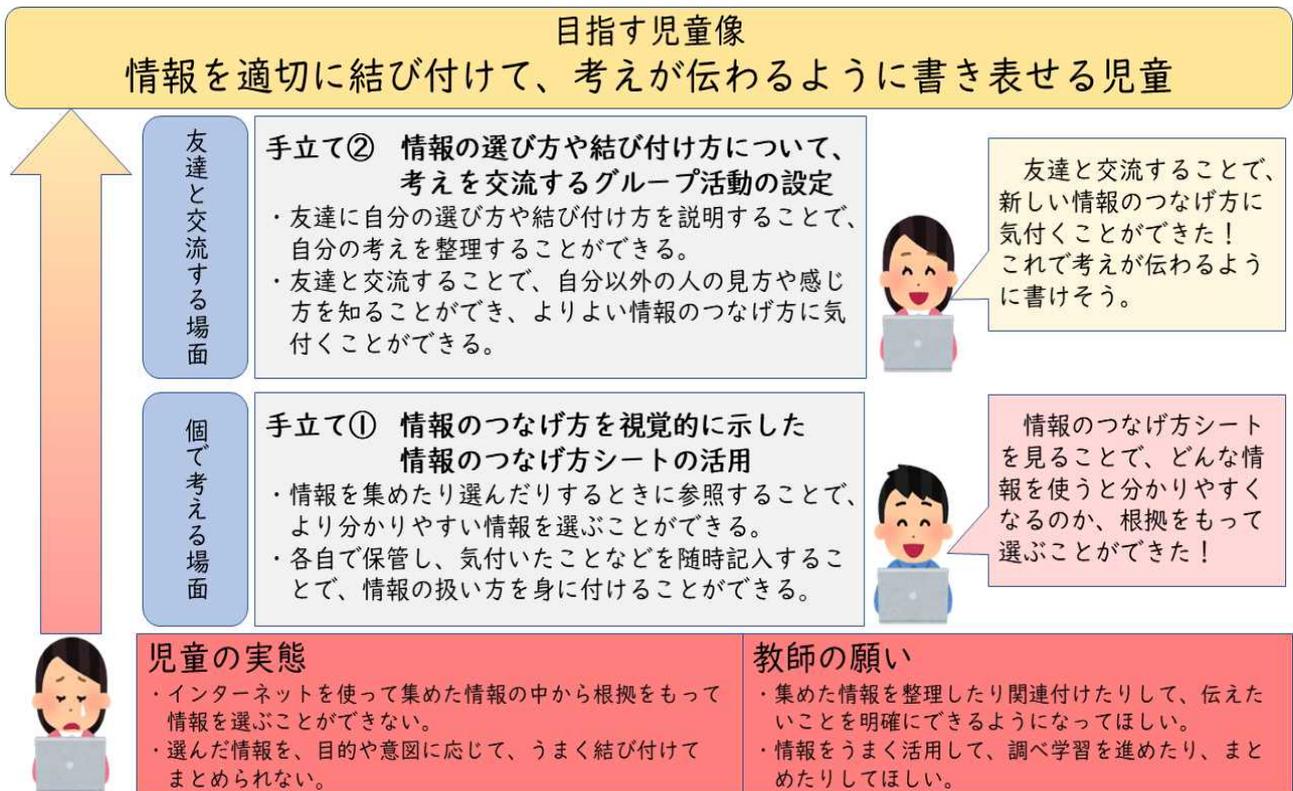
小学校学習指導要領解説国語編（平成 29 年）では、情報を整理したり関連付けたりする「情報の扱い方に関する『知識及び技能』は、国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つ」として、「情報の扱い方に関する事項」を新設し、系統的に指導していくことを求めている。

1人1台端末が導入されたことにより、研究協力校の児童も様々な教科の学習の中でICT機器を活用し、調べ学習をしたり、調べたことをスライドにまとめたりする学習に取り組んでいる。しかし、集めた情報を羅列するだけだったり、そのまま丸写ししてしまったりするなど、情報の扱い方がうまく身に付いていない様子が見られる。このような児童が情報の扱い方を身に付け、話や文章で適切に表現できるようにすることが重要であると考え。

そこで、情報のつなげ方シートを、情報を扱う際のガイドラインとして活用しながら情報を選んだり結び付けたりする活動に取り組むとともに、友達と互いの考えを伝え合うことを通して、情報を適切に結び付けて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できる児童を育成していこうと考え、上記のとおりテーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

児童が、情報を適切に結び付けて、考えが伝わるように書き表せるようになるための方法として、以下の手立てを通して授業の改善を図ることとした。

手立て1 情報のつなげ方を視覚的に示した、情報のつなげ方シートの活用

本研究では、情報のつなげ方についてまとめた、情報のつなげ方シートを使用する。情報のつなげ方シートとは、「具体例」「定義」「共通点」の3種類について、情報の結び付け方を視覚的に表した図を、1枚の用紙にまとめて例示したものである。「使い方」や「効果」「気を付けるポイント」が示されており、タブレットケースに入れておいて常に参照できるようにすることで、児童が情報を選んだり結び付けたりするときの根拠として活用する。「情報を結び付けることでどんな効果があるのか」「どんなところに気を付けて情報を結び付ければいいのか」を児童が気付いたときに随時書き込んでいくことで、児童自身がよりよいものに改善していけるようにする。

手立て2 情報の選び方や結び付け方について、考えを交流するグループ活動の設定

情報のつなげ方シートを活用することで、児童なりに根拠をもって情報を選び、結び付けようとするが、恣意的な判断に陥ってしまうことがある。そこで、どんな考えや意図をもって情報を選んだのかを友達同士で伝え合うことで、自分の選んだ情報が示す内容を考え直したり、他者の視点から捉えた情報の意味に気付いたりすることができるようにする。グループ活動を通して情報のよりよい選び方や結び付け方に気付くことで、考えが伝わりやすい文章を書けるようになることを考える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 情報のつなげ方シートを参照しながら資料を選ぶ際に、児童が話し合っただけで見いだしたり、それまでの経験から考えたりした観点を情報のつなげ方シートに自分の言葉で記述していったことで、児童はその記述に基づいて、資料同士を比較しながら、根拠をもって使いたい資料を選ぶことができた。
- 選んだ資料を並べ替えて構成を考える際に、情報のつなげ方シートに示された枠組を生かしたワークシートを用いて資料を整理することで、情報同士の関係に着目しながら、資料を並べ替えることができた。
- 情報の選び方や結び付け方について、考えを伝え合うグループ活動では、友達からのアドバイスをもとに資料の順番を入れ替えたり、資料を選び直したりする姿が見られた。また、友達から肯定的な反応をもらったことで、自分の考えに自信をもち、文章を書くことへの意欲を高めている児童もいた。
- 情報の選び方や結び付け方についてのグループでの検討を通して、それぞれの資料から読み取れる情報について理解が深まっていたことで、次時の文章を書く場面においては、ほとんどの児童が自分の主張に沿った資料を選び、事実と意見を分けて文章を書くことができた。

2 課題

- 情報のつなげ方シートを参照しながら、資料を選んだり並べ替えたりする活動では、自分なりの根拠をもって資料を選ぶことができているものの、選んだ資料を客観的に見て、「他の人が見ても本当に分かりやすいか」という視点で考えられている児童が少なかった。情報を選ぶ前に、情報の内容や意味を複数の立場から考えられるようにする必要がある。
- 互いの考えを認め合うことで自信をもつことはできたものの、友達が選んだ資料に対して反対意見を述べたり、新しい考えを提案したりできる児童は少なかった。友達と交流するときに相手と異なる考えを伝えることの大切さを実感できるようにしていきたい。

実践例

- 1 単元名 「身近な社会の問題について、説得力のある意見文を書こう」
 教材名 「世界に目を向けて意見文を書こう」東京書籍（第6学年・2学期）

2 本単元について

本単元では、自分の主張に説得力をもたせられるように、提示された資料から情報を選んで、適切に結び付け、意見文を書く活動を行う。ここでは、情報のつなげ方シートをもとに情報を選んだり並べ替えたりする活動を通して、児童が根拠をもって情報を扱えるようになることを目指した。そこで、児童が必要感をもって課題に取り組めるように、意見文のテーマは「スマートフォンを小学生に持たせるべきか」を設定し、授業参観で保護者に読んでもらうことを目標とした。また、資料に「グラフから分かること」と「自分の意見・考え」を分けて記述する欄を設けることによって、児童が事実と意見をはっきりと区別して意見文を書くことができると考えた。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 (知識及び技能) (2) ①目的や意図に応じて、情報を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 (思考力、判断力、表現力等) ②事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 (思考力、判断力、表現力等) (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで情報を活用し、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 (学びに向かう力、人間性等)	
評価規準	(1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使っている。 (2) ①「書くこと」において、目的や意図に応じて、情報を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。 ②「書くこと」において、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (3) 伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって、感じたり考えたりしたことについて、粘り強く文章に書くとしている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・単元の学習課題について理解し、学習の見通しをもつ。
追究する	第2時	・情報を整理して、説得力のある文章の構成を考える。
	第3時	・各自の構成についてグループで交流し、説得力のある意見文になるように、構成の「中」の内容を考える。
	第4時	・構成をもとに、意見文を書く。
まとめる	第5時	・友達同士で交流し、単元全体を振り返る。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全5時間計画の第3時に当たる。前時までには児童は、テーマについて自分の主張を決め、提示された資料の中から、使いたい資料を選ぶ活動を行ってきた。本時では、情報同士のつながりや読み手の捉え方に気付かせるために、グループでの交流を行う。この交流を通して、資料を選び直したり並べ替えたりして、主張により説得力をもたせられる分かりやすい情報のつなげ方を考えさせる。

そのために以下のとおり手立てを具現化した。

手立て1 具体例の選び方や情報の結び付け方を視覚的に示した情報のつなげ方シートの活用

本時では、具体例の選び方や情報の結び付け方を視覚的に示した情報のつなげ方シートを活用する。まず、自分の主張に説得力をもたせるための具体例の選び方について学級全体で話し合い、そこで共有された選び方を、新たな基準として情報のつなげ方シートに書き加える。その後、基準に沿って資料を選び、具体例の枠組を生かした構成メモシート上で操作しながら検討する。

手立て2 情報の選び方や結び付け方について、考えを交流するグループ活動の設定

本時では、それぞれが選んだ資料について、児童が考えた基準である「具体的な数字が書かれている」「選ばれた情報に共通点(テーマ)がある」「みんなが共感できる体験や知識が書かれている」をもとに、お互いにアドバイスし合えるようにする。

4 授業の実際

(1) 前時までの活動について

児童は第1時において、説得力をもたせられる情報の基準として、「具体的な数字が書かれている」「選ばれた情報に共通点（テーマ）がある」「みんなが共感できる体験や知識が書かれている」の3点を考え、情報のつなげ方シートに自分の言葉でまとめた(図1)。その後、3点の共通点として「読んだ人が分かりやすい」ということを全体で確認した。

第2時では、提示された資料の中から、自分の主張に説得力をもたせられる資料を、情報のつなげ方シートをもとに選び、構成メモシートに整理した(図2)。構成メモシートは、情報のつなげ方シートに示された「具体例」の図と同じ枠組を示し、実際に資料を並べ替える作業を行いながら、考えられるようにした。情報のつなげ方シートを参照しながら、具体的な数字が入ったグラフや共感できる内容が書かれた資料を選んで様子が見られた。

(2) 本時の「つかむ」過程において

本時のねらいについて確認した後、情報のつなげ方シートと照らし合わせながら、前時に作成した構成メモシートをもう一度見直させ、資料を選ぶ際に留意したことや意図したことを整理するとともに、グループ学習で友達に聞きたいことを考えさせた(図3)。

(3) 本時の「追究する」過程において

児童を「持たせるべき」「持たせないべき」の両方の立場の児童が入るよう5人ずつのグループに分け、それぞれの構成について考えを伝え合う活動を行った。

児童はまず、どのような考えで、資料を選んで、並べたかを友達に説明した。説明を聞いた児童は、情報のつなげ方シートの記述をもとに、読み手の立場に立って、相手の選んだ資料や並べ方が分かりやすかったかを伝え、より考えが伝わりやすい資料や並べ方についてアドバイスをしていた(図4)。以下はその際のやりとりである。

C2:資料①と②は、両方とも「グループチャット」について書いているから、つなげた方がいいんじゃない？
 C3:最初に「グループチャット」のことを言って、あとでスマホが必要なことを言うといいと思うから、これをこっちにすれば？(②と⑧の資料を指差しながら伝える。)
 C1:こういうこと？(実際に②と⑧の資料を入れ替えてみる。)
 C4はどう思う？
 C4:俺は①と②を逆の順番にしたけど、こっちも分かりやすいと思う。
 C1:(資料を指差しながら)グループチャットで何を話しているかが分かって、グループチャットで実際に問題が起こっているかが分かるから、これでいいよね。

C1は、「持たせるべき」という自分の主張に説得力をもたせる資料として「①普段グループチャットで話している内容」「②グループチャットで問題が起きたことがあるか」「⑧小学生からスマホを持たせている理由」の3つを選び、①⑧②の順で並べていた。その後、グループのメンバーとのやり取りを通して、「似ている資料をつなげるとよい」「より効果的な順番に並べた方が分かりやすい」ということに気付き、資料の順番を並べ替えた。

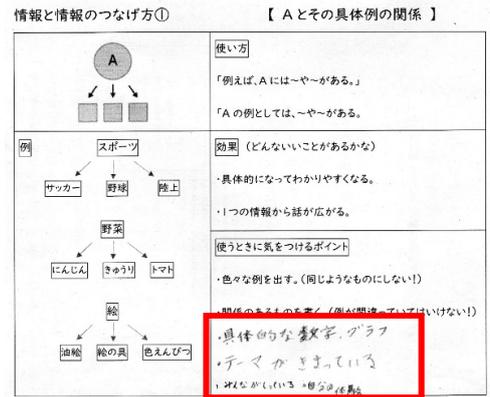


図1 情報のつなげ方シート
(赤枠が本単元で新たに記入した部分)

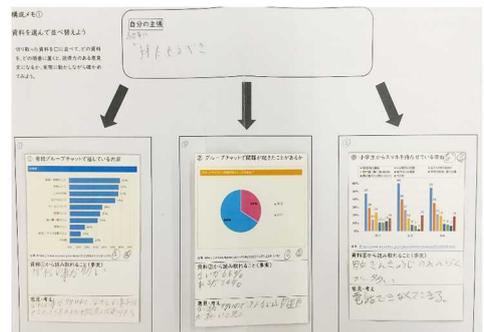


図2 構成メモシート



図3 個で考える活動



図4 グループでの交流

(4) 本時の「まとめる」過程において

本時の活動を通して感じたことを、振り返りシートに入力させた。C1はここで、「資料を入れ替えると、考えが少し変わって、逆にこっちが良いなと思えた。」と記述していたことから、資料を適切に結び付けることの大切さに気付いていたことが分かる。その他の児童の振り返りにも「資料の順番が変わった。言葉が似ているものが離れていたけど近くなった。」「自分が並べた理由を言ったあとに分かりやすかったと言ってきて自信がついた。」「みんなが納得するような意見文を書きたい。」という内容が書かれていた。

(5) 本時後

第4時では、本時で検討した構成や、資料に書いた事実と意見をもとに、意見文を書く活動を行った。完成した意見文を見ると、自分の主張に説得力をもたせられる資料を選び、事実と感想や意見とを区別して書いている児童がほとんどであった(図5)。第5時では、完成した意見文を読み合う活動を行った。その際の振り返りでは、「同じ資料でもみんな考え方は違うからすごく学べた」「具体的な数字や自分の体験を使うと説得力があることを学んだ」という内容を書く児童がいた。



図5 完成した意見文

5 考察

今回の授業実践では、情報のつなげ方シートをもとに、情報を選んだり結び付けたりして、意見文を書く活動を行った。授業後の振り返りの記述や完成した意見文から、児童は、情報を適切に結び付ける力を身に付け、自分の考えが伝わるように書き表すことができるようになったと言える。

意見文に使う資料を選ぶ場面では、情報のつなげ方シートにまとめた基準をもとに、具体的な数字が書いてあるグラフや、共感できる内容が書かれた資料を選び、選んだ根拠を友達に説明することができた。一方で、自分の主張に応じて、資料を都合よく読み取ってしまっている姿も見られたので、より客観的に資料を読み取れるようになることが今後の課題である。

グループで交流する場面では、より分かりやすく主張を伝えるために、同じ内容の資料をつなげたり、優先順位を考えて資料を並べ替えたりすることを促す発言が行われ、発言を聞いた児童は、友達の考えをもとに実際に自分の考えを改善していた。このことから、児童は適切に情報を結び付けることの必要性を理解し、意識して実践していこうとしていることが分かる。また、構成メモシートに選んだ資料を並べ、実際に操作しながら交流を行ったことで、情報同士のつながりが視覚的に分かりやすくなり、話合いが活発に行われている様子も見られた。

しかし、友達の考えを認めることはできても、反対意見を述べたり、新しい意見を提案したりすることができる児童が少なく、話合いが深まらずに終わってしまうこともあった。友達と交流するときに異なる考えを伝えることの大切さを児童が実感できるように、今後も継続して指導していきたい。

意見文を書く場面では、情報のつなげ方に着目してグループで検討したことで、それぞれの情報についての理解が深まり、書くことに苦手意識がある児童も、情報を適切に活用して意見文を書き進めることができた。また、ほとんどの児童が、選んだ資料から共通点を見付け、意見文のまとめに書くことができていた。

本実践の後、インターネットから情報を集め、グループでスライドにまとめる学習を行った。その際、「この画像の方が具体的な数字があって分かりやすいよ」「この情報はみんなが共感できるから最後にもってこよう」など、グループで交流しながら、情報を適切に結び付けようとする姿が見られた。今後も情報のつなげ方シートを活用し、情報の扱い方について継続して指導していきたい。